令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人アクロス福岡
施設名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）
内定額	1,237　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
普-01	アクロス・学校キャラバン	令和7年5月23日～ 令和8年2月6日	福岡県内小学校
普-02	劇場って楽しい！！	令和7年8月2日	アクロス福岡イベントホール

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		39	41	40
		公演事業	22	27	22
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		人材養成事業	3	4	6
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		普及啓発事業	13	10	12
		（内、本助成対象事業本数）	1	0	2
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　地域文化事業	1	0	0

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	1,000	961	957
	ホール名：シンフォニーホール　座席数：1871席	336	299	315
	ホール名：イベントホール　座席数：900席	323	329	312
	ホール名：円形ホール　座席数：188席	341	333	330
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		97,552	101,700	116,063
		公演事業	42,367	45,200	49,720
		人材養成事業	2,150	2,000	6,393
		普及啓発事業	53,035	54,500	59,950
		共生社会事業			
		その他　内容：　地域文化事業	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数		136,794	137,000	150,700
	その他　内容：　記入してください		0	0	
	計		234,346	238,700	266,763
開館日数			359	359	359
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			349	342	343
施設の利用日数			241	236	235
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			69.1%	69.0%	68.5%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	22	23	42,367		19				2	1
	共催・提携公演（※2）	33	33	38,761		33					
	貸館公演	461	461	136,794	18	149	7	11	15		261
	計	516	517	217,922							
令和6年度	主催公演（※1）	24	25	45,200		21				2	1
	共催・提携公演（※2）	42	43	40,432		42					
	貸館公演	452	477	137,000	17	151	6	11	18		249
	計	518	545	222,632							
令和7年度	主催公演（※1）	30	36	54,695		27				2	1
	共催・提携公演（※2）	39	40	47,566		39					
	貸館公演	221	497	139,714	11	168	12	14	16		
	計	290	573	241,975							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人アクロス福岡
施設名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）
内定額	1,237　　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	・事業に参加した児童らの反応 ・この体験（鑑賞）をきっかけに地域（まち）の劇場・ホール・映画館などへ行きたいと思ったか ・運営に協力したスタッフの反応（※【劇場って楽しい！！】事業では、他ホールや自治体職員等が複数運営に協力している	・アンケート回答者の９０％以上が【楽しかった】と回答 ・【ぜひ行きたい】との回答が６０％以上 ・【気づきがあった】との回答が８０％以上	・楽しかった 回答：84.3% ・ぜひ行きたい 未回答 ・気づきがあった 未回答 ※当日の振り返りでは高評価高だったが、数値として未集計。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業　　※アンケート結果を踏まえて記載	
自己評価	学校へ出向くアウトリーチ「アクロス・学校キャラバン」、劇場（当ホール）へ迎え入れる「劇場って楽しい！！」を企画し、音楽体験事業を２つのアプローチで実施した。児童らが学ぶ学校（教室・音楽室等）での音楽体験で興味も持ち、実際に劇場（ホール）に行ってみたいとなったケースもあった。 ※感想の伝え方にばらつきがあった。アンケートの取得方法にもっと工夫が必要だったと反省している。感情を様々な身体表現で伝えてくれているのに、アンケート項目に上手く活かすことができなかった。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・福岡市の姉妹都市である釜山市との音楽交流事業の実施。 ジュニアオーケストラの国際交流コンサートを実施し、人的交流を深める。	・オーケストラ団員へのアンケートにて、実施して「よかった」との回答数８割以上 ・釜山との日韓合同演奏会にて、在住・在日外国人来場者が１割以上	・団員アンケート（60 人回答） よかった（56 人）9 割の支持 不明（4 人） ・469 人の来場者中、50 人以上の来場があった。1 割の来場 ・釜山海雲台ユースオーケストラ 団員数：61 人
・国際音楽セミナーと提携し、福岡で著名な演奏家の指導を受けることができる。	・ミュンヘン国際音楽セミナーと提携し、「アクロス国際音楽セミナー」を実施。受講参加数 15 人以上　（ヴァイオリン・ピアノの合計）	・R7 年度参加者：17 人 ヴァイオリン（10 人） ピアノ（7 人）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	R7 年度は、福岡ジュニアオーケストラ事業において韓国・釜山市海雲台区で活躍する「海雲台ユースオーケストラ」をゲストに迎え、日韓の学生らによる交流コンサートを開催した。また、ドイツのミュンヘン国際音楽セミナーとの提携により、一流の教授が福岡で指導するマスタークラス「アクロス福岡国際音楽セミナー」を昨年度に続き実施した。 韓国・釜山の海雲台ユースオーケストラとの交流は、福岡のプロオーケストラである九州交響楽団と釜山市立交響楽団の間で生まれた音楽交流が始まりで、2007 年に福岡市と韓国・釜山市が姉妹都市協定を結んだことにより活発化した。以後、釜山市文化会館とアクロス福岡が相互に派遣し合う音楽交流事業を開始し、延べ 9 回の相互派遣を行ったが、世界的な感染症の影響により近年は交流が滞っていた。今回はおよそ 9 年ぶりの交流コンサート事業となった。それぞれの単独演奏の他、合同のオーケストラ編成による合奏も行い、学生らしく韓国の BTS の曲を合同演奏するなど交流は盛況を呈し、参加した団員らの満足度も高かった。海雲台ユースオーケストラの保護者等も数多く来日し、50 人以上の韓国人関係者（在住者含む）が来場した。音楽を通じて韓国と日本の子どもたちが出会い、こころを通わせる場として、国際交流を推進することができた。 そして、アクロス福岡国際音楽セミナーでは、若手演奏家の育成のためにピアノとヴァイオリン部門においてマスタークラスを開催し、国際コンクール入賞を目指すレベルの受講生を想定したレッスンを実施。ヴァイオリン 10 人、ピアノ 7 人の受講生を公募で選抜し、海外からも 4 人が受講、全員が修了した。ミュンヘン国際音楽セミナーから派遣した講師 2 人の評判も良く、世界レベルのレッスンを日本で受講できる貴重な機会となった。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	・使用を検討する場所や設備のイメージを、検討段階から分かりやすく把握できるようにする。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
・安価な入場料で良質な音楽の鑑賞機会の提供を実施し、入場者数を増やす。	・主催事業「ランチタイムコンサート」の入場者数を前年度より 5%増加（6 年度 6 公演合計：5,488 人）	・「ランチタイムコンサート」入場者数（7 年度 6 公演合計：6,176 人） 前年度比 12%増加
・知的発達障がい児に向けての劇場体験プログラムを実施するにあたり、地域の自治体、文化施設関係者、医療・福祉関係者等と協働する。	・事業の趣旨に賛同した協働実施者、20 人の参加を目標とする。（R6 年度実績：18 人）	・R7 年度参加実績：21 人
・小中学生のための質の高い音楽鑑賞事業を実施。	・福岡県教育庁と九州交響楽団との共同で「舞台芸術感動体験事業」を実施し、2 公演の参加者 2,500 人を受け入れる。（前年度 2,338 人）	・R7 年度実績：2,766 人
・学生オーケストラ活動の支援「青少年サポート事業」を実施。（会場費の支援金として、1 団体につ 10 万円を助成）	・支援を受けた学生オーケストラ団体が主催する演奏会の平均入場者数 1,000 人以上を目標とする。（R6 年度実績：955 人）	・R7 年度実績：1,277 人
・パンフレット、ホームページ等の見直しを実施	・利用を検討している顧客に実際の利用イメージが具体的に伝わるよう、施設のレイアウト、必要な機材・備品が一目で理解できるようなイメージ画像を掲載するなどし、改善をする。	・各施設の階層ごとのフロアマップ、座席からの見え方（シンフォニーホール）、レイアウトプランや利用例の画像など、WEB での施設案内を充実させた。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	クラシック音楽の裾野を広げるための取組として、安価な入場料で良質な音楽の鑑賞機会を地域住民へ提供する事業「ランチタイムコンサート」や、福岡県内の文化施設等へ演奏家を派遣する無料のアウトリーチコンサート「ミュージックキャラバン」を実施した。ランチタイムコンサートでは、来場者数が前年度より 12%増加するなど、地域住民から支持されている。 音楽を通した社会包摂事業としては、知的・発達障がい児を対象とした「劇場って楽しい！！」事業を実施。事業実施にあたっては、社会包摂事業実施を目的とする「劇場×福祉 九州ネットワーク会議」（※九州内のホール・公立文化施設関係者や、福祉事業従事者たちによる社会包摂の研修を目的とする任意団体）との連携により、企画から事前研修、当日の運営までを、福岡県内外のホールと協働で行い、知見や運営ノウハウを共有した。 青少年を対象とした事業では、福岡県教育庁と九州交響楽団との共同事業「舞台芸術感動体験事業」を実施。県内の小中学生を対象に福岡シンフォニーホールで九州交響楽団の演奏を体験するコンサートを開催した。居住地にかかわらず音楽での感動を経験してもらう趣旨から、遠隔地からの参加校に対し貸切バス代を補助する取組を行い、27 校 2,766 人が参加した。また、「文化庁・子供文化芸術活動支援事業」にて採択された 2 事業について、こども無料招待を実施し、18 歳以下のこどもたち合計 670 人が来場した。 そのほか、学生オーケストラへの支援として公募により選定した 14 の大学・高校の学生オーケストラの定期演奏会に共催し、会場費への助成金を支出した。入場者数も堅調で、平均 1,200 人を超えることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・クラシック音楽を通じて、多様な音楽、楽器体験を提供する事業を実施	・アクロス福岡館内で様々なコンサートや楽器体験を実施する「クラシックふぇすた」を実施する。0 歳から入場可能なコンサートや、初心者向け楽器体験、経験者向けの楽器クリニック等、多様な企画を実施。2 日間で 17,000 人以上の来場者を目標とする。（昨年度 17,576 人）	・「クラシックふぇすた」 R8 年度来場者数：17,268 人
・地元福岡の演奏家やスタッフだけでなく関東や関西等からの出演者・参加者数	・「クラシックふぇすた」事業にて、出演者、参加楽器店等の関係者について、福岡県以外に居住する参加人数の割合が５０％以上。	・112 人の関係者の内、半数以上（50%）が福岡県外からの参加となった。
・若年層の参加者割合	・若年層（20 歳台以下）の参加者割合が 20%以上。	・アンケート結果 19 歳以下割合：26.7%
・アウトリーチ事業の実施数	・福岡県内の公立施設にて、10 回以上実施 ・福岡県内の特別支援学校・支援学級にて、10 回以上実施	・ミュージックキャラバン事業 12 回実施 ・特別支援学校・支援学級へのアウトリーチ活動：14 回実施
・アクセシビリティ研修の実施	・様々な障害を抱える方への、合理的配慮、特に「劇場での対応方法」について、実践を交えながら学ぶ。当財団事業グループ職員全員が計 5 回のプログラムの受講をする。	・芸術×福祉 九州ネットワーク会議：計 5 回受講

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	聴く・触れる・参加する！当財団主催の「アクロス・クラシックふぇすた」事業は、音楽愛好家はもちろん、楽器に触れたことがない、コンサート会場に行ったことがないなど、今までクラシック音楽と接する機会が少なかった人にも、年代を問わず楽しめるイベントである。アクロス福岡館内の複数の施設を利用し、家族や友人同士で音楽三昧の一日を過ごせる場所を提供し、多様な音楽公演、演奏家、楽器など、様々な要望に応える事業である。地元の九州交響楽団などの奏者や、国内外で活躍するプロ奏者等による無料演奏会を２日間で３０回以上実施。アマチュア育成のため、学生奏者も出演。ヴァイオリン体験、バックステージツアーなど参加型の企画や、有名楽器メーカーの展示品や即売会、楽器の相談など、音楽芸術活動への参加へ繋げることを目的とし、昨年度に続き 17,000 人以上の来場者があった。（※若年層（19歳代以下）の入場者割合は 26.7%）また、演奏家や楽器店・メーカーは地元福岡県だけでなく、全国から関係者が参加した。 そのほか、居住地や経済状況にかかわらず、生の音楽芸術を体験するために、福岡県内の公立文化施設等にて無料のアウトリーチコンサートを 12 回実施した。（ミュージックキャラバン事業）また、様々な障がいを抱える児童へのアウトリーチコンサートも 14 回実施した。(学校キャラバン特別授業) そして、アクセシビリティの向上を目指し、社会包摂を学ぶ場である「芸術×福祉 九州ネットワーク会議」にも職員が参加し、今後の事業企画に活かしている。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

知的発達障がい者に向けての劇場体験「劇場って楽しい！！」公演での来場者アンケートおよび対応スタッフの声を紹介したい。

（来場者の声）

・昨年に引き続き、今回も参加いたしました。子どもは昨年に比べると落ち着いて鑑賞できたのではないかと思います。**少し崩れても周りに過剰に気を遣わなくても良い環境がとても有難かったです。**

・普段バギーやチューブに**視線が集まってしまい、心からお出かけを楽しめない**時などもあるのですが、今日の公演の間はそんなことも気にせず**心から家族で楽しむことができました。**もっともっと**こんな場所が増えるといいな**と思います。

・**泣き出したらどうしよう、などと心配することなく安心できる、**貴重な場所だと思います。

・本当に居心地がよかったです。細部に配慮が行き届いていて、**安心感を、とても感じられました。**

（スタッフの声）

・普段、環境の変化にとまどってしまうために足を運ぶことをためらっている来場者の皆さんが、楽しい時間を過ごしていることが肌で実感できたし、それがアーティストやスタッフにも伝わって、**空間全体が親密な空気を生んでいたことに気づきました。**

・**障がいのあるかたを受け入れることにすごく大変そうなイメージがあったが、そうでもなかった。**受け入れる側がハード面・ソフト面ともにしっかり準備し体制が整えられていたからだと思う。

・**親御さんや支援者の方達も、緊張されている、気を張っているんだなと、ひしひしと感じました。**スタッフ自身も楽しんで、楽しい雰囲気作りをすることは、**当事者の方達だけではなく、親御さん達に安心していただくため**にも、とても大切な要素だと感じました。

以上のように、障がいをお持ちの方だけでなく、そのご家族や付き添いの方も劇場鑑賞の高いハードルを感じていたことがわかる。よって、いかにして劇場に入りやすい雰囲気を全体で作り出せるか、安心・安全を第一にスタッフは事前研修を存分に重ねてきた。当日はひとりひとりが考え、行動することができ、その成果として、来場者から高い評価をいただけることとなった。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	福岡県からの指定管理料、福岡市からの補助金を除く事業収入を安定的に確保し、助成金や補助金の獲得にも努めている。	チケット販売促進と広報を包括的に行い、全体を見据えた広報戦略の効果的な実施を試みている。
目標(値)（※2）	指定管理料を除く自主財源比率を7割以上とする。	寄付金・協賛金の獲得につながる取り組みにも努める。
実績(値)	・R7 年度自主財源率：64.6%（予算）	・WEB メンバーズ（前年比：132%） R8 年 3 月末会員数：36,116 人 ・アクロスの活動を周知する取り組み「アクロス・ラボ」を開設
団体の自己評価	公益目的事業の拡充と中長期的な財政基盤の強化を図るため、公益充実資金等取扱要綱を制定した。	事業企画内容を作り手側から紹介する「アクロス・ラボ」をホームページにて公開し、将来を見据えた持続的な財団の取組みを紹介した。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	他の音楽ホール等との連携事業を年間 1 回以上実施している。	設置者である福岡県より、幹部職員が派遣されている。また、運営に必要な指定管理料を受領している。
目標(値)（※2）	複数館での連携事業を計画し、助成金申請や協賛獲得など、さらなる協力を目指す。	
実績(値)	・「東京六人組」公演 （所沢市民文化センターとの連携事業） ・真言宗声明とカウンターテナー （サザンクス筑後、宮崎県立芸術劇場との連機事業　※地域創造助成金）	
団体の自己評価	九州のホール間連携「九州類似ホール連絡会議」や全国の類似ホールとの情報共有を目的とする「コンサートホール企画連絡会議」等に参加し企画の提案や課題共有に努めることができた。	令和 7 年度は現指定管理期間の最終年度にあたり、これまでの実績をふまえ、令和 8 年度からの第 6 次中期経営計画の事業方針に基づき、事業計画を福岡県へ提案。審査の結果、令和 8 年度から 5 年間の管理者として指定を受け、福岡県の文化振興政策の一翼を担っていくこととなった。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	音楽業界に精通したプロデューサーが芸術監督と同等の業務を問題無く実施している。	代表には、福岡県財界の元経営者が歴代就任しており、安定した経営がなされている
目標(値)（※2）	芸術監督という名称の肩書を当財団は使用していない。今後使用を検討していく。	指定管理者制度のため、選定を引き続き受けられるよう、堅実に事業計画を遂行していく。
実績(値)	事業部プロデューサー（芸術文化担当）	代表理事：津上賢治 元・九州電力代表取締役副社長
団体の自己評価	クラシック音楽業界に精通したプロデューサーの下、音楽業界・ホール等で実務経験のあるディレクター陣や、音楽を学んだ若手スタッフなど、バランスのとれた人材を配置できている。	指定管理者の選定にあたり、選定委員会からは、当財団が福岡県の文化芸術振興条例や振興計画に基づく事業の実績があり、今後さらに充実させる事業展開が具体的に提案されていること、健全な財務体質であることなどが評価され、県議会の議決を経て、指定管理者として指定を受けた。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	同業界で実績のある中途採用職員だけでなく、アートマネジメントを学んだ新卒も活躍している。	職位ごとにバランスよく役割分担がされている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	音楽の経験や自主事業の企画・マネジメント力のある専門的人材の配置が不可欠なため、(一財）地域創造の公共ホール求人情報サイト等を活用することで、全国規模での公募による選考を実施し、優秀な専門人材の確保を図っている。	福岡県文化芸術振興条例に沿った事業を、限られた人数で効果的･効率的に実施するため、各部署の役付き職員以上で構成する経営企画会議で議論・検討を行い、財団全体で事業の遂行、計画策定を実行している。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている)。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	欠員の募集にはなるが、若年層の募集も積極的に実施している。	比率は 50%と、バランスが良い。
目標(値)（※2）	中核職員候補として、積極的に若年層を雇用し、育成をしていく。	
実績(値)	30 歳代以下の職員が活躍している。 ・30 歳代以下：6 人 ※事業企画を担う芸術文化・地域文化チーム 10 人の内、半数の 5 人が 30 歳代以下である。	■管理職：11 人　※県からの派遣職員含む ・男性：5 人 ・女性：6 人　（55%）
団体の自己評価	事業の中心を担うプロデューサー、ディレクター陣、その下の中堅職員、若手職員と、階層的な世代交代を計画的に進めている。また、持続的に若年層の雇用も続け、将来の中核職員を育成している。	職員のキャリヤ形成を評価し、男女平等に管理職への登用をしていく。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児休暇、介護休暇等、制度化されており、積極的に取得している。	個人情報保護、情報公開、人権同和問題、不正行為等、年に 1 ～2 回実施。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	職場の労働災害及び健康障害を防止し、職員の安全及び健康を守るため、衛生委員会を設置するとともに、安全衛生に関する年間活動計画を策定し、職員に周知している、 併せて、ストレスチェック制度を導入し、職員の心身の健康や安全な業務環境の整備を図っている。	コンプライアンス規程を定め、職員に対し行動の指針を示すとともに、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスに関する意識の向上を図っている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメント研修を年 1 回実施。	財団内の起案～決裁を経て、契約書締結を遵守している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	・カスタマーハラスメントマニュアルの整備 ・産業医による相談体制の確立	
団体の自己評価	威圧的な行為を繰り返すカスタマーハラスメントについては、職員を守るため、マニュアルに沿った組織的な対応を徹底していく。 また、パワー･ハラスメントに関する研修を実施するとともに、職場のハラスメントやメンタルヘルス不調を直接産業医に相談できる仕組みを整えている。	コンプライアンスを順守し、適切な契約業務を実施できている。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
音楽・舞台芸術を中心とした文化芸術の振興を図るため、「グローバルな感動体験」、「演奏家・聴衆・事業運営者など事業を支える人の育成」及び「あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出」の３つの事業理念を掲げ、バランスのとれた事業展開を行った。その中でも特に力を入れたのが社会包摂事業であり、当助成金にて採択された 2 つの普及啓発事業「アクロス学校キャラバン」「劇場って楽しい！！」を中心に、多様な事業を実施することができた。 音楽を通した社会包摂への取組として実施した「アクロス学校キャラバン」では、普通学級、特別支援学級、特別支援学校へ訪問するアウトリーチ事業を実施。普通学級にはヴァイオリンとピアノのデュオを派遣し、普段触れる機会が極めて少ない弦楽器の体験授業を実施。特別支援学級・学校では、パーカッション奏者やダンサーを派遣する音楽体験授業を行い、障がいの種別に合わせた授業を臨機応変に実施し、合計 774 人の児童が参加した。 また、「劇場って楽しい！！」は、知的発達障がい児を対象とした事業で、音楽を楽しむコンサート体験を通して、音の大きさや響き、照明の明暗、鑑賞者としてのルールなどを学ぶ劇場体験を実施。約 550 人が参加した。事業実施にあたっては、社会包摂事業実施を目的とする「劇場×福祉 九州ネットワーク会議」（※九州内のホール・公立文化施設関係者や、福祉事業従事者たちによる社会包摂の研修を目的とする任意団体）との連携により、企画から事前研修、当日の運営までを、福岡県内外のホールと協働で実施し、知見や運営ノウハウを共有することができた。その他にも、本事業において、アクロス福岡と福岡県内市町村が連携した初の取組として、同県の大刀洗町にて「劇場って楽しい！！2025 in 大刀洗」を開催し、町職員も企画運営に携わり、120 人を超える来場者が参加した。 このような事業を通して、あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出を図り、音楽芸術の裾野を拡げるための取組にも励み、音楽愛好家はもちろん、今までクラシック音楽と接する機会が少なかった人にも、年代を問わず楽しめる音楽イベントを企画・実施するなど、音楽を鑑賞・体験できる事業を数多く実施した。その他には、育成事業にも積極的に取り組み、プロを目指す「ヴァイオリンセミナー」や「アクロス福岡国際音楽セミナー」を開催。また、青少年のための「福岡ジュニアオーケストラ」や、楽器初心者向けの「ジュニアオーケストラアカデミー」を開講するなど、地域の音楽文化の裾野を拡げる事業も実施した。 以上のような取組の結果、当財団の令和 7 年度事業は主催 40 事業、共催 39 事業の合計７９事業を実施。入場・参加者の合計は 116,063 人となった。

備考